

「多喜二祭」に参加して 2020・2・22(土)

小樽奥沢墓地での小林多喜二没後 87 周年墓前祭に参加致しました。例年にない雪の少なさで急な傾斜の墓地への道も比較的楽に登れ、関係者のご挨拶の後、赤いバラの献花をして小林多喜二のご冥福をお祈りしつつ、生前の多喜二の生きざまを思い、87 年前の無念な思いして息を引き取った多喜二を偲びました。その後、場所を移動して昼食、そして昔小樽経済の中心地で「北のウォール街」と呼ばれた色内にある日本銀行小樽支店跡、多喜二の勤めた拓銀小樽支店跡等を見て「小樽文学館」に立ち寄りしました。小林多喜二や伊藤整、石川啄木等、小樽に馴染深い文化人の作品や資料展示を見学しながら、あらためて小樽の素晴らしさを感じ取りました。1 時半頃場所を移動して色内に有る「小樽市民センター」に到着しました。この会場で 2 時から「没後 87 周年 小樽多喜二祭記念のつどい」が開催されます。定刻となり関係者から会のご挨拶がされ、その後バイオリニスト大橋理絵さんから曲名の説明などがあり、多喜二が好んで聞いたブラームスの「祈ればよかった」等、5~6 曲が演奏され会場内に美しい音が鳴り響きました。記念講演では前川喜平氏から「安倍政権下の教育」という題目で、4 時過ぎまで、飛行機の時間に遅れそうになる時間まで、面白、可笑しく、興味深く講演されました。会の締めには小樽商大の荻野富士夫教授が登壇され荻野さん自ら刊行委員会を設け出版にこぎ着けた「西田信春-甦る死」の本の話しをされ、大変興味深く、ロビーで買い求めました。妻は喜平さんの「面従背腹」を買い求め読了後交換する事にしました。小樽旅、無事終了。



多喜二の勤めた拓銀小樽支店跡等を見て「小樽文学館」に立ち寄りしました。小林多喜二や伊藤整、石川啄木等、小樽に馴染深い文化人の作品や資料展示を見学しながら、あらためて小樽の素晴らしさを感じ取りました。1 時半頃場所を移動して色内に有る「小樽市民センター」に到着しました。この会場で 2 時から「没後 87 周年 小樽多喜二祭記念のつどい」が開催されます。定刻となり関係者から会のご挨拶がされ、その後バイオリニスト大橋理絵さんから曲名の説明などがあり、多喜二が好んで聞いたブラームスの「祈ればよかった」等、5~6 曲が演奏され会場内に美しい音が鳴り響きました。記念講演では前川喜平氏から「安倍政権下の教育」という題目で、4 時過ぎまで、飛行機の時間に遅れそうになる時間まで、面白、可笑しく、興味深く講演されました。会の締めには小樽商大の荻野富士夫教授が登壇され荻野さん自ら刊行委員会を設け出版にこぎ着けた「西田信春-甦る死」の本の話しをされ、大変興味深く、ロビーで買い求めました。妻は喜平さんの「面従背腹」を買い求め読了後交換する事にしました。小樽旅、無事終了。



なる時間まで、面白、可笑しく、興味深く講演されました。会の締めには小樽商大の荻野富士夫教授が登壇され荻野さん自ら刊行委員会を設け出版にこぎ着けた「西田信春-甦る死」の本の話しをされ、大変興味深く、ロビーで買い求めました。妻は喜平さんの「面従背腹」を買い求め読了後交換する事にしました。小樽旅、無事終了。